

6/14 早稿

# マイナ保険証 しわ寄せ現場に

健康保険証とマイナンバーカードを一体化したマイナ保険証を巡り、医療現場が混亂を強いられている。資格確認システムの不備で保険加入者が確認できず窓口で求める医療費に関する政府の対応マニアアルが「十割負担」から「三割負担」にひつそり変更され、対応に苦慮しているというのだ。

(山田祐一郎)

## 資格確認できぬ時 窓口負担



マイナ保険証の資格確認ができない例が相次ぐ中、会見を開いた全国保険医団体連合会(保団連)。住江議長は、「十割負担」が止まらない

九日に東京都内で会見を開いた全国保険医団体連合会(保団連)。住江議長は、「十割負担」が止まらない。患者の窓口負担を「三割負担」にひつそり変更され、対応に苦慮しているというのだ。

各医療機関は今年四月以来、患者のマイナ保険証を読み取り、どの種類の健康保険に入っているかを調べる「オンライン資格確認」のシステムを導入することが義務付けられた。このシステムではトライアルが相次いだ。マイナ保険証を巡って本人情報の登録の不備があったほか、他人の情報とひも付くなじみ、マイナ保険証を持参した患者が保険加入者が確認できぬ例が続出したのだ。

**特報**

保団連は先月末、そうした「無効」を理由に医療機関が「いったん窓口で十割負担」を求めたケースが四月以降に「百四件あったと公表。」この日の会見では、八百九十三件まで疲れ上がったと説明した。

「十割負担」は、オンライン資格確認の運用マニュアルに沿って対応した結果だ。ただ患者側から批判が湧き上がり、医療現場に困惑が広まっていた。

問題のマニュアルは六月一日付で改定された。問題のマニュアルは六月一日付で改定された。

問題のマニュアルは六月一日付で改定された。

問題のマニュアルは六月一日付で改定された。

問題のマニュアルは六月一日付で改定された。

問題のマニュアルは六月一日付で改定された。

側の責任かのよつた発言を繰り返している。その中でマニアアルが改定された」と一連の経緯を断じた。

マニアアルは、オンライン

資格確認で医療機関の窓

口となる社会保険診療報酬支払基金がまとめた一方、基金を所管する厚生労働省

の見解を反映している。

本紙は八日から九日につけて、厚生労働省医療介護連携政策課にマニアアル改定の経緯を問い合わせたものの、

「担当者が多忙」という理由

で回答を得られなかつた。

NPO法人「医療制度研究会」の本田宏副理事長は、「本来なら準備や実証実験を繰り返した上でマイナカードやマイナ保険証の導入を検討すべきだが、政府はそれらの手順を踏まず、トライアルへの検証もない」と批判し、「う訴える。「政府に運用能力や信頼がない中、紙の保険証を廃止するには許されない。早急に

断念する必要がある」

大阪府保険医協会の井上美佐副理事長は、「(十割負担)の問題が浮上した)五月末以降、河野太郎チジタル相は、テレビ番組で『これまでの保険証を忘れた場合と同じ二割負担でいいじゃないか』ともて医療機関